

ぼくのハムスター

三年 今井悠斗

「ハムスターかわいい。かいたい」とぼくが言ったら、

「おとし、自分のおこづかいで買ったニジイロクワガタ、ちょっと世話しただけで、半年おばあちゃんが毎日みてたよね。ねこも亀も金魚もメダカもおばあちゃんが手入れしてるよね。」とお母さんがいました。

「ウナギのエサはぼくが川やみぞや田んぼでとってるよ。」とぼくが言うと

「かうためにはルールを決めよう。自分で世話をすること。大じょうぶ？」とお母さんに言われました。ぜったいきちんとぼくが世話をしようとの心の中で決めました。

ハムスターのゲージとおやつと、けんこうフードとバランスフードとおがくずと消臭砂とハムスターのかい方の本を買いました。「ハムト」と名前をつけました。

買って来たのは三月のはじめだったので、夜は寒くないようにダンボールを切ってゲージのカバーを作りました。ひと月したらグニャグニャになってしまいました。ちょうどいい大きさの四角いバッグをかぶせました。今も使っています。ハムトがかくれられるように入れたおがくずが、ゲージからポロポロ出てまわりがよれるので、ゲージより大きくてかたい段ボールを切ってゲージをのせました。そうするとそうじをする回数が少なくなりました。ハムトは、ゲージをガジガジかむのでかじりほうを買ってつけてあげました。

ゲージのそうじをする時は、ゆかに新聞紙をひろげます。とうめいのハムスターボールにハムトを入れてハムトは部屋の中をころころ回ります。その間にティッシュでかごの中をふきます。おしっこやウンチをとります。水入れとエサ入れもきれいにふきます。こぼれたおがくずもすてます。さいごに、ハムスターボールもあらいます。そうじは三十分ぐらいかかります。お水を入れ、大すきなヒマワリのたねやけんこうフードをエサ入れに入れてあげます。

ハムトは昼はよくおがくずの中にもぐってねています。夜はよく、カラカラと回し車で遊んでいます。朝ぼくが起きると歩数計が一万をこえている時もあり、とてもがんばって回ったのだなと思いました。

「ハムト。」

と戸を開けてよぶと手の平の平のつてきます。自分の名前が分かるのかもしれない。おなかがすくとゲージをカジガジかんで知らせます。スロープを上がっていくすがたがとってもかわいいです。回し車の中でりょう手にあごをのせてまるまってねているすがたもとてもかわいいです。

ずっとずっとぼくの友だちです。大事にします。